

第135回 岐阜市管内景況調査報告書(平成26年1～3月期)

【調査要領】

- 1 対象期間 平成26年1～3月、平成26年4～6月期の見通し(平成26年3月1日時点の調査)
- 2 調査方法 岐阜商工会議所経営支援員の実訪による
- 3 調査対象 岐阜市内の中小企業105社(回答数92社、回収率87.6%)
- 4 D I 値 景気動向を現す景気早見表(「増加・好転」－「減少・悪化」)

管内景況の概要(業種全体)

今期(平成26年1～3月期)の管内中小企業の景況を見ると、第二次産業ではやや減速した一方で第三次産業は若干好転。結果として、全体では前期とほぼ同様となった。

来期(平成26年4～6月期)の景況予想について、消費税増税分の価格転嫁が困難なことや消費マインドの冷え込み等のマイナス要因が顕在化する反面、プラス要因が乏しいためやや落ち込む見通し。

全業種

(前年同期比)

	業況判断	売上額	在庫	経常利益	資金繰り	従業員
25年 1～3 実績	△ 37.6	△ 36.5	△ 26.8	△ 43.1	△ 28.3	△ 4.9
4～6 実績	△ 18.6	△ 15.8	△ 13.5	△ 25.6	△ 22.8	1.4
7～9 実績	△ 27.3	△ 20.5	△ 22.0	△ 32.5	△ 19.2	3.1
10～12 実績	△ 23.1	△ 33.3	△ 13.7	△ 33.8	△ 16.0	△ 4.3
26年 1～3 実績	△ 23.3	△ 23.0	△ 10.9	△ 30.1	△ 17.4	△ 4.6
4～6 予想	△ 29.6	△ 24.0	△ 22.2	△ 31.0	△ 16.0	△ 6.5

1. 業況

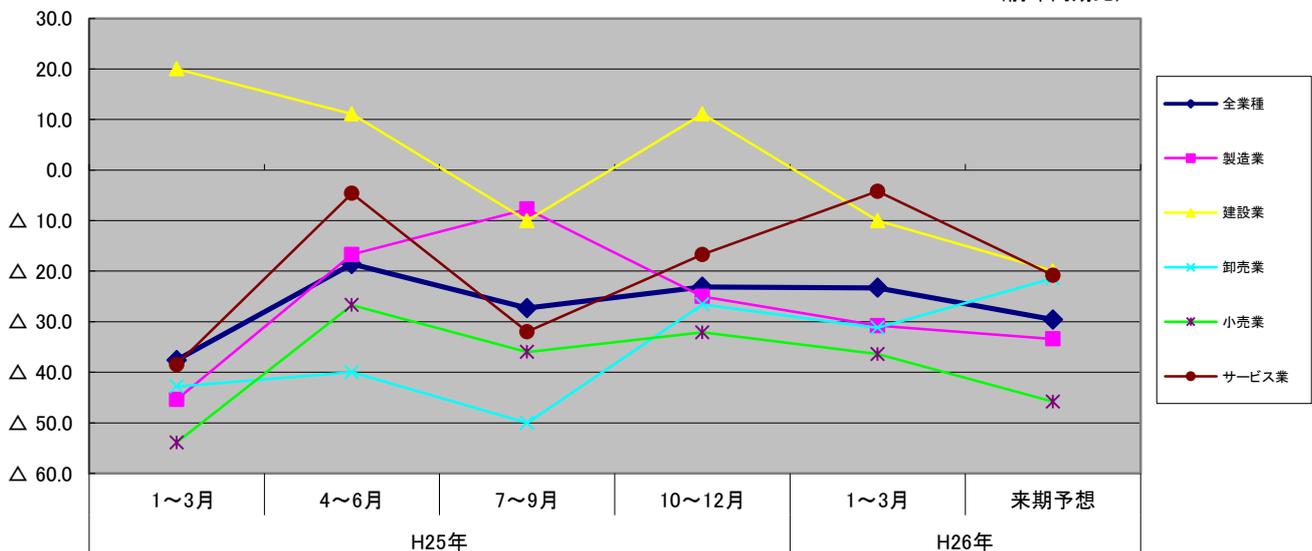
全業種の DI 値は、△23.3と前期(△23.1)に比べると0.2ポイントマイナス幅が拡大した。来期はさらにマイナス幅が拡大する見通し。

業種別でみると、サービス業で若干回復したが、それ以外の業種では軒並みマイナス幅が拡大。特に前期好転していた建設業の下げ幅が大きく再びマイナス局面となった。

	業況判断DI(「好転」-「悪化」)				(前年同期比)	
	H25年 1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	H26年 1～3月	来期予想
全業種	△ 37.6	△ 18.6	△ 27.3	△ 23.1	△ 23.3	△ 29.6
製造業	△ 45.4	△ 16.7	△ 7.7	△ 25.0	△ 30.8	△ 33.4
建設業	20.0	11.1	△ 10.0	11.1	△ 10.0	△ 20.0
卸売業	△ 42.8	△ 40.0	△ 50.0	△ 26.6	△ 31.2	△ 21.4
小売業	△ 53.9	△ 26.7	△ 36.0	△ 32.1	△ 36.4	△ 45.8
サービス業	△ 38.5	△ 4.6	△ 32.0	△ 16.7	△ 4.2	△ 20.8

業況判断DIの動向(好転-悪化)

(前年同期比)



2. 売上(加工)額

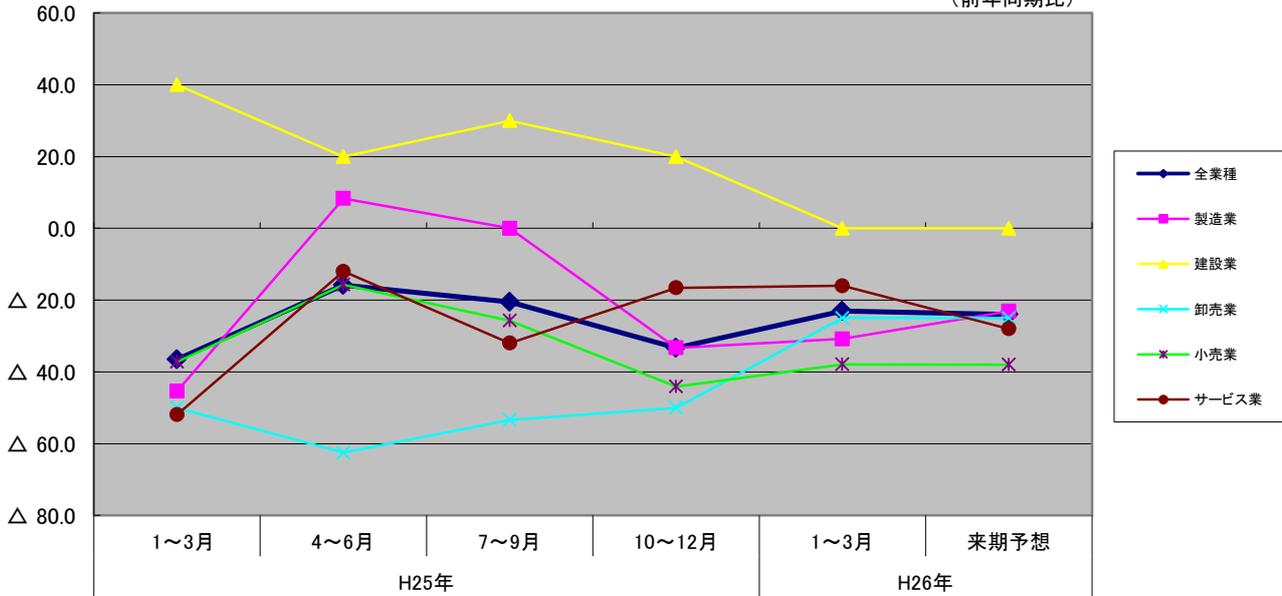
全業種のDI値は、△23.0と前期(△33.3)に比べ10.3ポイントマイナス幅が縮小した。来期は、ほぼ横這いの見通し。

建設業を除いた全業種で増加、特に卸売業で顕著な増加が見られた。

	売上額DI(「増加」-「減少」)				(前年同期比)	
	H25年	4~6月	7~9月	10~12月	H26年	来期予想
全業種	△ 36.5	△ 15.8	△ 20.5	△ 33.3	△ 23.0	△ 24.0
製造業	△ 45.4	8.3	0.0	△ 33.3	△ 30.8	△ 23.1
建設業	40.0	20.0	30.0	20.0	0.0	0.0
卸売業	△ 50.0	△ 62.5	△ 53.4	△ 50.0	△ 25.0	△ 25.0
小売業	△ 37.2	△ 15.7	△ 25.7	△ 44.1	△ 37.9	△ 38.0
サービス業	△ 51.9	△ 12.0	△ 32.0	△ 16.6	△ 16.0	△ 28.0

売上額DIの動向(「増加」-「減少」)

(前年同期比)



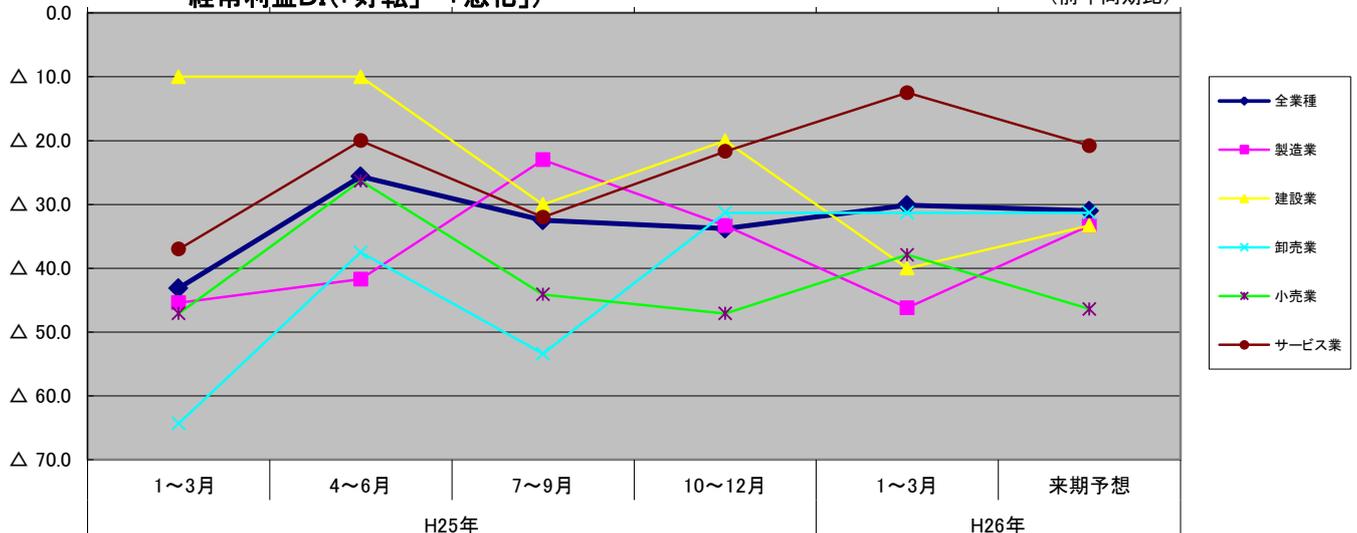
3. 採算(経常利益)

全業種のDI値は、△30.1と前期(△33.8)に比べ3.7ポイントマイナス幅が縮小した。来期は、今期とは対照的に、製造業・建設業では好転し、小売業・サービス業では悪化する予想で全体ではほぼ横這いの見通し。

	経常利益DI(「好転」-「悪化」)				(前年同期比)	
	H25年	4~6月	7~9月	10~12月	H26年	来期予想
全業種	△ 43.1	△ 25.6	△ 32.5	△ 33.8	△ 30.1	△ 31.0
製造業	△ 45.4	△ 41.7	△ 23.0	△ 33.3	△ 46.2	△ 33.3
建設業	△ 10.0	△ 10.0	△ 30.0	△ 20.0	△ 40.0	△ 33.3
卸売業	△ 64.3	△ 37.5	△ 53.4	△ 31.3	△ 31.3	△ 31.3
小売業	△ 47.1	△ 26.3	△ 44.1	△ 47.1	△ 37.9	△ 46.4
サービス業	△ 37.0	△ 20.0	△ 32.0	△ 21.7	△ 12.5	△ 20.8

経常利益DI(「好転」-「悪化」)

(前年同期比)

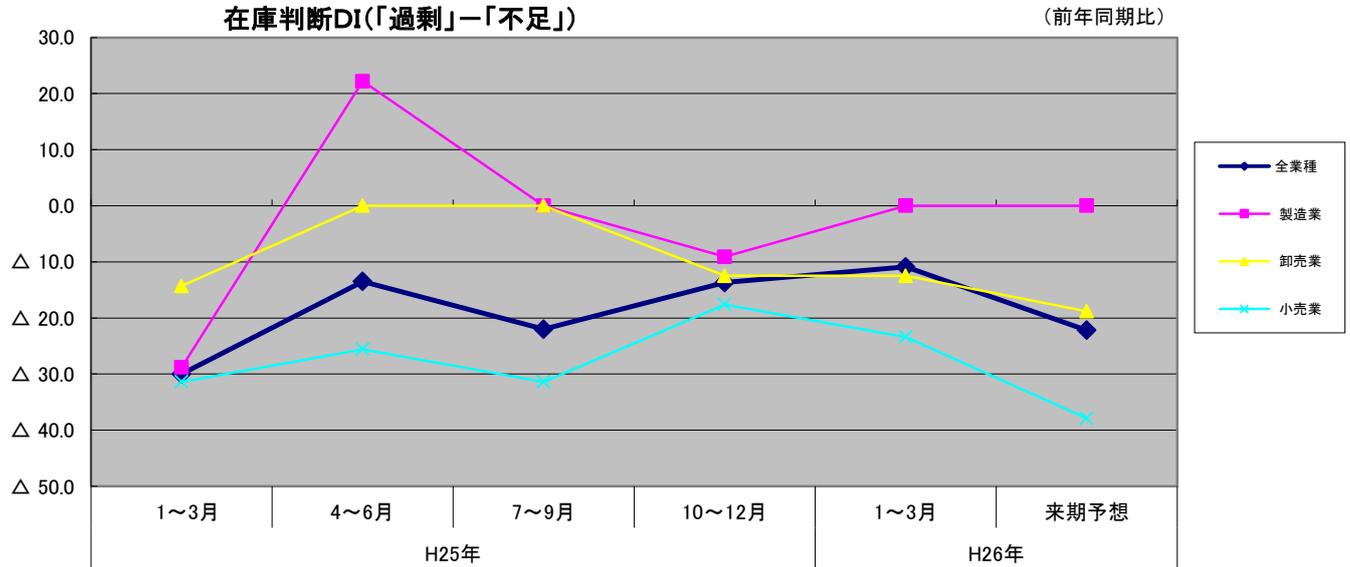


4. 製品・商品の在庫

全業種の DI 値は、△10.9と前期(△13.7)に比べマイナス幅が2.8ポイント縮小した。

4月以降は卸売業・小売業ともに在庫がさらに不足する見通し。

	在庫判断DI (「過剰」-「不足」)				(前年同期比)	
	H25年	4~6月	7~9月	10~12月	H26年	来期予想
全業種	△ 30.0	△ 13.5	△ 22.0	△ 13.7	△ 10.9	△ 22.2
製造業	△ 28.8	22.2	0.0	△ 9.1	0.0	0.0
卸売業	△ 14.3	0.0	0.0	△ 12.5	△ 12.5	△ 18.8
小売業	△ 31.4	△ 25.6	△ 31.4	△ 17.6	△ 23.4	△ 37.9

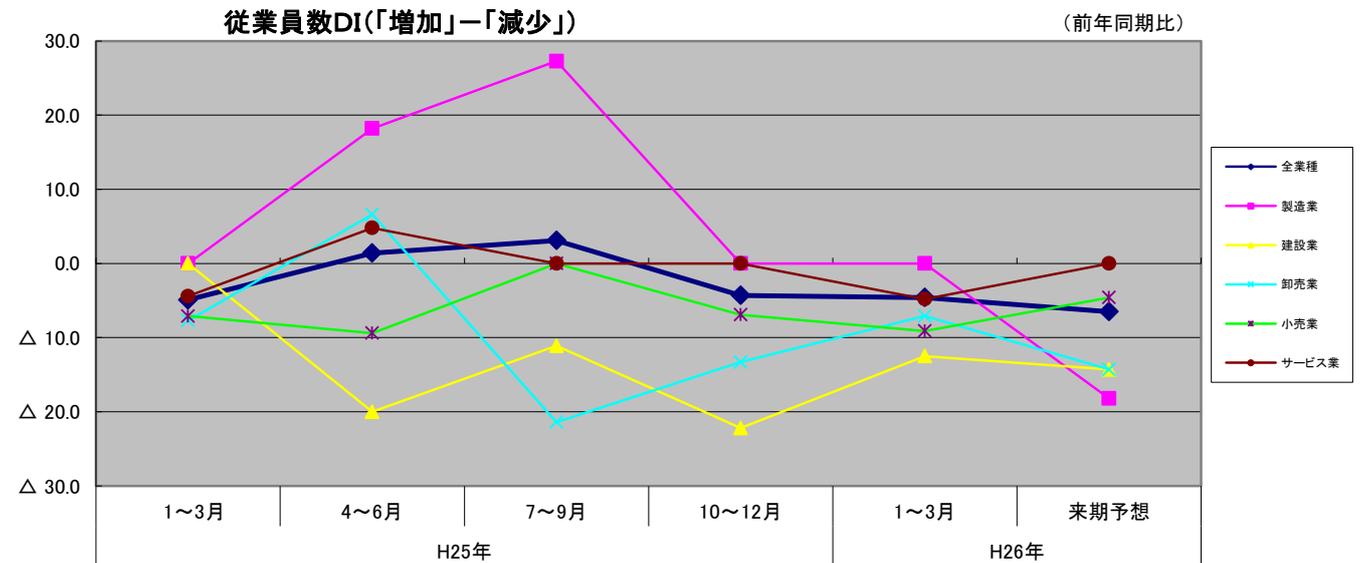


5. 従業員数 (臨時・パート含む)

全業種の DI 値は、△4.6と前期(△4.3)に比べマイナス幅が0.3ポイント拡大した。来期はさらにマイナス幅が拡大する見通し。

業種別では、建設業・卸売業で増加している一方、小売業・サービス業では減少傾向。

	従業員数DI (「増加」-「減少」)				(前年同期比)	
	H25年	4~6月	7~9月	10~12月	H26年	来期予想
全業種	△ 4.9	1.4	3.1	△ 4.3	△ 4.6	△ 6.5
製造業	0.0	18.2	27.3	0.0	0.0	△ 18.2
建設業	0.0	△ 20.0	△ 11.1	△ 22.2	△ 12.5	△ 14.3
卸売業	△ 7.7	6.6	△ 21.4	△ 13.3	△ 7.1	△ 14.3
小売業	△ 7.1	△ 9.4	0.0	△ 6.9	△ 9.1	△ 4.6
サービス業	△ 4.4	4.8	0.0	0.0	△ 4.8	0.0



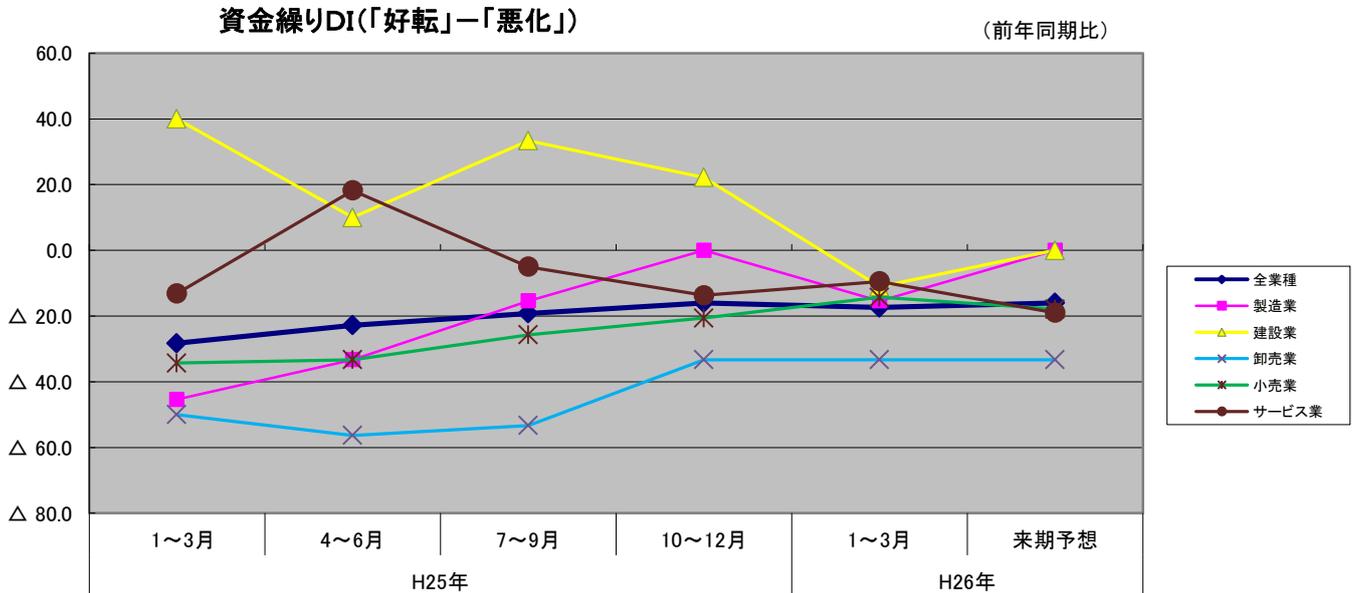
6. 資金繰り

全業種の DI 値は、△17.4と前期(△16.0)に比べ

1.4ポイントマイナス幅が拡大した。

業種別では製造業・建設業で大幅に悪化。小売業・サービス業では若干の回復が見られる。

資金繰りDI(「好転」-「悪化」)	H25年				H26年	
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	来期予想
全業種	△ 28.3	△ 22.8	△ 19.2	△ 16.0	△ 17.4	△ 16.0
製造業	△ 45.4	△ 33.3	△ 15.4	0.0	△ 15.4	0.0
建設業	40.0	10.0	33.4	22.2	△ 11.1	0.0
卸売業	△ 50.0	△ 56.3	△ 53.3	△ 33.3	△ 33.3	△ 33.3
小売業	△ 34.3	△ 33.3	△ 25.7	△ 20.6	△ 14.3	△ 17.9
サービス業	△ 13.1	18.2	△ 5.0	△ 13.7	△ 9.5	△ 19.0



7. 経営上の問題点

前期予想では消費税増税前の駆け込み需要が期待されていたが、影響は限定的で全業種で需要の停滞が上位を占めた。製造業・建設業を中心に単価の低下や上昇難も大きな問題である。

上段:今回

下段:前回

	今期直面している経営上の問題点				
	1位(%)	2位(%)	3位(%)	4位(%)	5位(%)
製造業	需要の停滞	製品単価の上昇難	大企業進出競争の激化	新規参入業者の増加	製品ニーズの変化
	24.0	20.0	8.0	8.0	8.0
建設業	請負単価の低下・上昇難	民間需要の停滞	人件費の増加	新規参入業者の増加	材料価格の上昇
	14.8	14.8	11.1	7.4	7.4
卸売業	需要の停滞	販売単価の低下・上昇難	大企業進出競争の激化	代金回収の悪化	事業資金の借入難
	26.2	19.1	7.1	7.1	7.1
小売業	需要の停滞	消費者ニーズの変化	販売単価の低下・上昇難	購買力他地域への流出	大企業進出競争の激化
	21.4	19.1	13.1	11.9	8.3
サービス業	需要の停滞	利用者ニーズの変化	利用料金の低下・上昇難	大企業進出競争の激化	新規参入業者の増加
	29.4	25.5	11.8	7.8	5.9
	38.6	18.2	13.6	7.8	6.8